

第15回宇宙開発委員会定例会議事次第

1. 日 時 昭和45年12月9日(水)
午後2時～4時
2. 場 所 宇宙開発委員会専用会議室
3. 議 題 第一分科会報告書について
4. 配布資料
委15-1 第13回定例会議事要旨
委15-2 第14回定例会議事要旨
委15-3 第一分科会報告書

第 / 3 回宇宙開発委員会定例会議議事要旨

- 1 日 時 昭和45年10月21日(水)
午後2時~4時
- 2 場 所 科学技術庁第二会議室
- 3 議 題 (1) 宇宙開発計画(案)について
(2) 予算の見直しについて
- 4 配布資料
/ 3-1 第 / 2 回定例会議議事要旨
/ 3-2 宇宙開発計画(案)
/ 3-3 " 説明資料
- 5 出席者

委員長	西 田 信 一
委員	山 泉 昌 夫
"	網 島 毅
"	大 野 勝 三
説明者	文部省大学学術局審議官 渋谷 敬 三

関係行政機関職員

科学技術事務次官	藤 波 恒 雄
科学技術庁長官官房長	矢 島 嗣 郎
科学技術庁研究調整局長	石 川 晃 夫
科学技術庁研究調整局宇宙開発参事官	市ノ瀬 輝 雄

文部省大学学術局審議官(代理:大学学術局学術課)	鈴木 喬
通商産業省工業技術院総務部長(代理:総務課)	相 馬 哲 夫
運輸省大臣官房参事官(代理:大臣官房副政務計画官)	高 谷 悟
気象庁総務部長(代理:気象研究所総務課)	中 村 繁
海上保安庁総務部長(代理:水路部輪船課)	山 崎 昭他
郵政省電波監理局審議官(代理:電波監理局技術調査課)	上 田 義 矩他
郵政省電波監理局無線通信部長	大 塚 次 郎
建設省大臣官房技術参事官(代理:官房技術調査室)	中 村 六 郎

事務局

科学技術庁研究調整局宇宙企画課長 堀之北 克 朗他

6 議事内容

- (1) 前回議事要旨の確認
「第 / 2 回宇宙開発委員会定例会議議事要旨」が確認された。
- (2) 西田委員長から開会の挨拶があつた。
- (3) 網島毅常勤委員から新任の挨拶があつた。
- (4) 山泉委員から、宇宙開発計画について
これまでの見直しの経緯及び改訂点の要旨の説明があつた
あと、次の討議があつた。

(イ) 委員長から、この計画を着実に遂行してゆく、最大の努力をしなければならないこと、及び関係大臣から巾広い宇宙開発計画を作るように要望があつたので、今後逐次見直しを行なう段階に於て、次第に巾広いものにしてゆきたい、旨の発言があつた。

(ロ) 網島委員から、今回の案の骨子は実用分野の大巾な変更であるが、昭和35年の答申にある「自主性の尊重」の問題に関しては、これは狭義には自分の技術だけでやるということ、広義には、外国の知識は利用するが、自分自身の構想で進めるということであろう。さて今回の計画については、現在の社会ならびに国際状況からして完全に自分自身の技術のみをもつて、研究開発をすることは不可能であつて、しかも程度の問題であるので、従つて今回の計画案は「自主性の尊重」にもとるとは思われなし、むしろ利用できる技術は積極的に利用すべきであろう。

又このNの2.3段にQの3.4段をつぐのは多少困難ではないかと感じられる。この点は時に応じて必要な修正をして行かねばならぬだろう。

(ハ) 石川局長から、網島委員の主旨は事業団にも伝えて進めてまいりたい旨の発言があつた。

その後、計画案文につき質疑があつた後、これを原案通り

決定した。

- (5) 西田委員長から訪欧の報告があつた。
- (6) 開発計画決定に伴う委員長談話を審議し、これを了承した。
- (7) 渋谷文部省審議官から、文部省関係の開発計画変更に伴う予算について説明があつたのち、これを審議した。
- (8) 山県委員長代理から閉会の挨拶があつた。

第 / 4 回宇宙開発委員会定例会議事要旨

- 1. 日時 昭和45年 / / 月4日(水)
- 2. 場所 科学技術庁第二会議室
- 3. 議題 宇宙開発関係予算について
- 4. 配布資料
 - 委 / 4-1 第 / 3 回宇宙開発委員会定例会議事要旨
 - 委 / 4-2 昭和46年度における宇宙開発関係経費の見直しについて(案)
 - 委 / 4-3 昭和46年度予算要求の概要
(宇宙開発事業団)

5. 出席者

委員長	西田 信 一
委員	山 県 昌 夫
"	網 島 毅
"	大 野 勝 三
"	吉 謙 雅 夫

説明者 科学技術庁研究調整局宇宙開発課長 園 山 重 道

関係行政機関職員	
科学技術事務次官	藤 波 恒 雄
科学技術庁長官官房長	矢 島 嗣 郎

科学技術庁研究調整局長	石 川 晃 夫
科学技術庁研究調整局宇宙開発参事官	市 瀬 輝 雄
文部省大学学術局審議官(代理:東京大学宇宙航空研究所)	秋 元 春 雄)
通商産業省工業技術院総務部長(代理:相馬哲夫)	
気象庁総務部長(代理:気象研究所総務部研究業務課)	中 村 繁 也)
海上保安庁総務部長(代理:水路部編曆課)	山 崎 昭)
郵政省電波監理局審議官(代理:電波監理局技術調査課)	影 山 英 彦)
郵政省電波監理局無線通信部長	大 塚 次 郎)
建設省大臣官房技術参事官(代理:官房技術調査室)	中 村 六 郎)

事務局

科学技術庁研究調整局宇宙企画課長 堀之北 克 朗 他

6. 議事内容

(1) 前回議事要旨の確認

「第 / 3 回宇宙開発委員会定例会議事要旨」の一部に網島委員から修正の異議があつた。

(2) 園山科学技術庁宇宙開発課長から、宇宙開発事業団の昭和46

年度予算要求の概要について説明があつたのち、次の質疑があつた。

(1) 山県委員: Nが固体中心から、液体中心に変更したが、

種子島射場に関しては問題はないか。

園山課長：事業団から問題はないと聞いております。

山県委員：港の整備の問題が生じないか。

園山課長：従来計画でも相当大規模な海上輸送を考えていたので新たに問題が生ずることはありません。また、液体酸素などは現地で製造すると聞いております。

(ロ) 大野委員：用地買収の予算を要求しているのは計画変更による拡張のためか。

園山課長：射場の全体構想は今のところ変わっておりません。今回の要求予算はテレメータ一施設用等の飛び敷地その他45年度の買い残りであります。

(ハ) 網島委員：経費の年度毎のスケジュールはできているか。

園山課長：一応できております。7ヶ年の予算の見積りはあくまで見込みであるので一件一件積み上げてまいりますと、多少の変更はあると思います。

網島委員：初年度の減った分はどこかで増えることになるのか。

園山課長：そういうことになるかと思いますが、節約できる所もございますし、また種々な拘束条件から年度の予算が増えたからとして、その分開発が進むわけでもございません。

ので、更につめて検討を進めてまいりたい。

(3) 堀之北宇宙企画課長から、「昭和46年度における宇宙開発関係経費の見積りについて(案)」の説明があつたのち、次の討論があつた。

(イ) 網島委員：政府機関以外のNHK、日本電気会社等も宇宙開発に関与しているわけで、当委員会としてもこれらについて把握を知っておくべきではないかと思う。

石川局長：今後、改めて郵政省を通じて御報告申し上げたいと思います。

(ロ) 山県委員：委員会の見積り調整で、来年度の事業団関係の出資について決めてしまつた場合NHK、電々公社等の出資について拘束することにならないか。

石川局長：出資の問題は現在郵政省等と話しを進めているが、結論はまだ出ていない。今後話し合いを進めていくことになる。従つて46年度にはNHK、電々公社からの出資は予定していない。

(ハ) 西田委員長：このような問題もあるので、各省庁が一体となつて、日本の宇宙開発を推進してゆく上で、緊密なる連絡検討が必要であるので関係閣僚懇談会を設けることにしたが、このような検討課題を提出してもらつてこの懇談会をスタートしたい。しかも、「利用」が委員会の所管外になつている。これも

改めて検討し直す必要があるように思う。

また、現在、一致協力して、わが国の宇宙開発をよりよい方向に持つて行こうとしている気遣が出ていますし、いろいろな宇宙開発の問題を検討してゆきたい。

以上の発言があつた後、「昭和46年度における宇宙開発関係総覧の見積りについて(案)」を審議し、これを決定した。